



すごく温かくて優しい。

絵柄ですが、「親子の愛情」や「命の重さ」なども病気で亡くすシーンが印象的でした。「もしも」と願っています。

家は長女(小学2年)、長男(幼稚園年)

親子の愛情、命テーマ 子育て悩んだら読んで

話を広げるツール(手段)にもなってくれる。ふとした会話から子



「絵本の読み聞かせは子どもとのコミュニケーションを広げてくれる」と話す鈴木貴之さん

題名になっている電話ボックスは、遠い街で闘病中の母親に電話をかけると、少年と、少年に子ギツネの姿をだぶらせる母ギツネをつなぐ存在として描かれています。実際の子育てでも母親と子どもとの結び付きはとても強く、だからこそ母親の

方が子育ての負担も多いように感じています。今は「イクメン」といいますが、父親として子育てに積極的に取り組むのもある。

「きつねのでんわボックス」(戸田和代作、たかすかずみ絵、金の星社)

今年6月から県立幼稚園PTA連絡協議会長。インターワイヤード岩手胆沢工場勤務。37歳。奥州市胆沢区出身。